

(1)技術・家庭科における昨年度の改善プランの検証

観点	検証
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の時間確保の工夫により、基礎的、基本的な技能について繰り返し指導することができた。 ・製作や実習に際し、見通しを持って作業出来るよう手順をイメージさせたり、製作表を活用し、基本的な技能を身につけさせた。 ・身近にある生活技術を取り上げる指導や、定期テストへ向けての学習などで、学習への意識付けを図ることができた。 ・ノートの取り方を工夫させることで、学習のまとめを確実にを行う習慣が定着した。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら作業を進めるなどの指導を通し、一定の成果を得た。 ・学んだ知識や技術を実践的に活かせるようにし、身近な生活と結びつける題材や指導を心掛けた。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底により、生活や技術に対して関心を持ち、意欲的な取り組みが見られた。 ・具体的な例示を多くし、日常生活との関連を意識させることができた。

(2)技術・家庭科の具体的授業改善策

観点	具体的な授業改善策
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高めるようにする。 ・生徒個人としてだけでなく、グループで行うコミュニケーション形式の学習形態の確立を目指すようにする。 ・PCに関する基礎的・基本的な技能を、体験的に身に付けさせる。 ・衣食住の自立に関する学習や、幼児の生活の体験的な学習を通して、家庭生活に必要な技能を身に付けさせる。 ・生活に必要な衣食住及び家族や、家庭生活に関する実践的な知識を理解させる。 ・衣食住の自立の学習において、健康で快適な生活ができる基礎的な知識を理解させる。 ・ワークやノートを個別に確認することで知識・理解の定着を図る。 ・PCに関する技能を、体験的に身に付けさせる。 ・定期テストを通して学習に対する意識の向上を図る。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・製作や実習を通して、自ら調べ、確認することで、生活を創造する姿勢を育てる。 ・自分の生活を見つめ、学習した知識や技能を生活に生かし、より豊かな生活に結びつけ工夫する能力を育てる。 ・消費者としての自覚をもたせるとともに、環境に配慮した生活を送る必要性に気付かせ、関心をもたせる。 ・生徒自身の幼児期を振り返ったり、視聴覚教材等で幼児への理解を深めたりすることにより、幼児との関わり方への課題を発見する能力やその解決方法について学ぶ。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する掲示物や、生徒の作品を掲示することなどで意欲を高め、授業に対して積極的に取り組む姿勢を育成する。 ・自分の日常の生活を見つめなおすことにより、問題点を見つけ、より良い生活が主体的に出来るよう関心をもたせる。

学年	具体的な授業改善策
1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室でのルールや、道具を使用する際のルールを事前に説明し、授業規律の確立に努め、一つ一つの作業に確実に取り組めるような姿勢をつくる。 ・製作表(振り返りシート)やノートを活用し、個人の技能のつまづきを把握し技能の定着に活かす。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心の差を踏まえ、日々の生活の中から題材を設定するなど身近な視点から学習内容をとらえさせる工夫をし、意欲を喚起する。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な工夫で作業時間等を確保し、技術家庭科の授業の集大成として完成の喜びを味わわせる。 ・体験的な授業を通し、基礎的・基本的な学びを活かし生活を工夫する能力を養う。